

演劇 × 著作権 × 法律

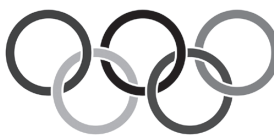
「著作権・契約書Q&A」より改題

「五輪エンブレム」問題から考える、
マークやロゴの著作権弁護士（日本・ニューヨーク州）／日本大学芸術学部 客員教授
HP: <http://www.kottolaw.com>
Twitter: @fukuikensaku左：オリンピック・パラリンピックのエンブレム
右：リエージュ劇場のロゴ

ベルギー側のマークを以前に見ていたこと（非真似したこと）。この全てを証明できないと著作権侵害は成立しない。③はなかなか悪魔の証明なので、普通は状況証拠などで詰めて行くが、佐野氏は見ただこと自体を否定している。

問題は①と②だ。通常、比較的シンプルなロゴには著作物性自体が認められない。著作権は非常に長期間、全世界的に及ぶ強い権利なので、世の中である程度パターンが有限なマークをあまり著作物として独占させると、社会の円滑な運営が害されるからだ。

たとえば、当の自家五輪マークも、著作物と認められなかった裁判例がある。



過去、裁判では著作物と認められなかった五輪マーク

更に②の類似性だ。もともと、我々の文明にはある程度の模倣行

の作品が次々とやり玉に挙げられ騒ぎは拡大の一途をたどる中、本人の辞退を受けて組織委員会がエンブレムの取り下げを発表した事件だ。デザインの種類炎上は、演劇活動にとっても全く他人事ではないだろう。

まず法律問題から解説しよう。問題のマークはこれ。

こうしたマークの類似の場合、通常は商標権の侵害が取り沙汰される。もつとも商標は登録されて初めて権利が生まれるもので、今回ベルギー側のロゴは未登録だった。そのため、商標権の話は早期に消え、代わりに著作権侵害で提訴された訳だ。

著作権侵害だが、これが成立するためには原告ベルギー側は通常次の3つのことを証明しなければならぬ。①自らのロゴが著作物であること、②両マークが実質的に類似していること、③日本側が

というわけで、今、これを語らずして何を語るのかの五輪エンブレム問題である。簡単におさらいしよう。佐野研二郎氏がデザインしたエンブレムが、ベルギーはリエージュの劇場のロゴに似ているとして先方が抗議、ベルギーで著作権侵害に基づく差止めの裁判を起こした。ネットを中心に炎上状態になり、佐野氏の関わった過去

次いでこの問題を取り巻く世論のありようだが、筆者には違和感もあった。

違和感の第一は、あの「バクリ」という下品な言葉だ。今回騒動の拡大は、著作権の詰め議論などほとんどないままに、ややお茶の間のなごシブのレベルで、バクリ、疑惑の追及が続いた末のことに見える。いや、法的に著作権侵害にあたるものものを批判するな

のののもとにレッテル貼りが続くのはどうにも危険な事態に思えた。

第二の違和感として、そうした過去の「バクリ」の発掘・暴露の連鎖のすえ、論点が「エンブレムが是非か」という国家的テーマから、「佐野氏の人間性」にシフトしたように見えた点だ。無論、批判意見もわかる。エンブレムの展開例における画像流用はじめ周辺で一見した権利侵害が見えられないなど、佐野氏側の落ち度も否定はできなかった。そんな中、新競技場問題といい、今回のエンブレムの選考プロセスといい、オリンピックの進め方全般に対する人々の「違うんじゃないか」という思いが、この「バクリ」疑惑に流れ込んだ格好なのだろう。

い。要は、落ち着いた対処が必要なのだ。

果たしてこれだけの大炎上後の殺伐とした空気の中、どんな新エンブレムをどう選ぼうと納まるのか……。と考え込んでいたところで、武蔵小金井のセブン・イレブンが作るうとしたおでんポップが目飛び込んできた。



左：セブン・イレブンのおでんポップ案

今回も、両マークは色合い、赤い丸の存在、背景など相違点も少なくない。加えて五輪エンブレムはパラリンピックのそれと対にもなっており、コンセプトも異なっていない。その意味で、恐らく著作権侵害にはあたらないだろう。実際、国内の知財の専門家の中で、著作権侵害だという見解は恐らくほとんどなかったのではなからうか。

不安材料があったとすれば、ベルギーの裁判という点だ。やはりどうしても地元びいきの判決は出やすい。だからリスクがゼロということはないだろうが、著作権侵害はちよっと予想しづらい。とまあ、以上がざくっとした法律論。

「違法ではない借用・参照」の広大な領域が広がっており、そこはいわば社会の自由な論評に委ねられている。つまり、「侵害じゃないかも認めないね」という論評は誰だって自由ではあるのだ。ただそれは、公正に議論されるべきものだ。著作権侵害だと言っているのか、そのうちではなくビジネス倫理・創作の姿勢の問題として相手を批判しているのかを混同したまま、バクリ

しかしそもそも、シンプルな図案や音楽のフレーズの場合、どうしたって似たものは世の中にある。大規模イベントやヒット作品の場合には世界中の人々の目にさらされる結果、この種のクレームを受けることは決して珍しいことではない。リオ五輪も裁判になったし、「ハリ・ポッター」などどれだけ盗作クレームを受けたかわからな

これだよこれ！ 取下げはひとつの政治的判断としてわかる。これを機に選考プロセスやチェック体制の見直しを含めて、更に開かれた五輪運営を目指して貰いたい。でもそれ、明るくやろう。だって50年ぶりの世界最大のお祭りじゃないか。この日本人の遊び心こそが世界に届けたい「クールジャパン」だし、意外とそんなゆとりの中に、現状打開のヒントもあったりするものだ。